

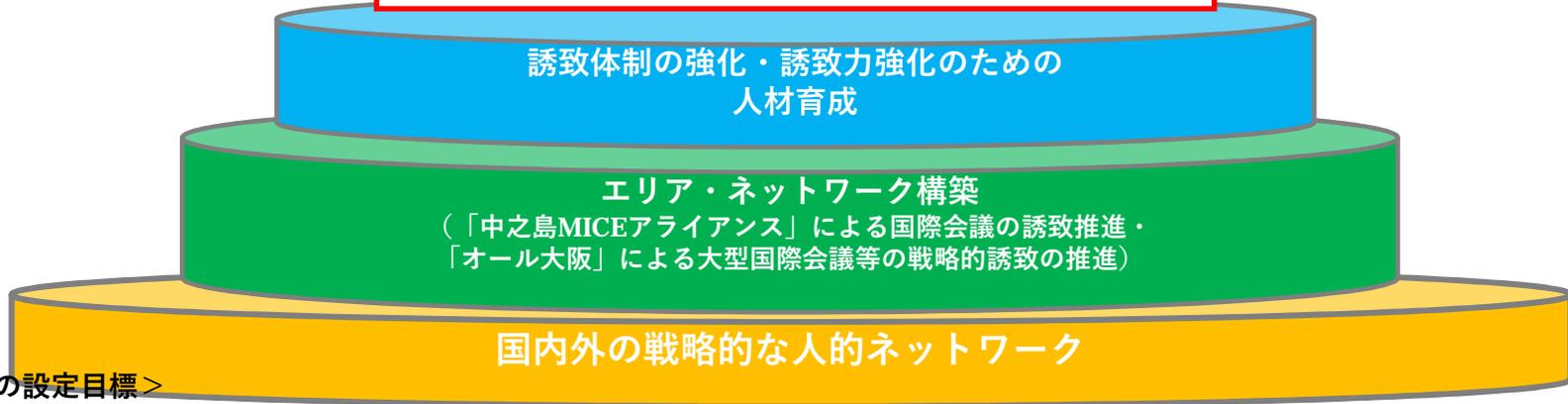
国際会議誘致の取組みに係る基本方針の概念（案）

資料3-2

戦略目標	「アジア有数の都市型MICE施設」を目指し、国際会議の特性に応じた戦略的誘致の推進
数値目標	【開催件数】 2019年60件 ⇒ 2020年62件 ⇒ 2022年65件 ⇒ 2023年70件

< 目標達成の手段 >

- ・ データに基づくマーケティング
- ・ 主催者への支援制度拡充と戦略的活用
- ・ 国際会議のキーパーソン等との新たなネットワーク形成



初年度（2019年）	3年後（2021年）	5年後（2023年）	10年後（2028年）
<p>データに基づくマーケティング 従来からの医学系学会のデータベース拡大を中心に新たに自然科学・各種団体へのアプローチ</p>	<p>医学系と並ぶ柱として自然科学系の国際会議に関するデータベースを拡充。</p>	<p>・ 医学系学会、自然科学系学会のデータベースを中心として、また経済分野等更なる分野のデータベースの拡充 ・ 国際会議に関する汎用的なデータベース構築と活用</p>	<p>学術会議の調査、営業活動、人的データ等の情報を一元化し、データベースを構築。それらを基に国際会議の特性に応じ、国際会議のポイントをおさえた的確な営業活動が行える環境を整備</p>
<p>支援制度拡充と戦略的活用 ・ 支援金プログラムの活用拡大</p>	<p>・ 支援金プログラムの多様化 ・ 新しいトータルサポートメニューの検討</p>	<p>・ 国際会議の特性に応じた支援手法の整備 ・ トータルサポートの充実と確立</p>	<p>多様で効果的な支援ツールを活用し、国際的意義の高い、又は経済的波及効果の大きい国際会議（MICE）を主導的・機動的に誘致</p>
<p>キーパーソン等新たなネットワーク形成 ・ アドバイザによる紹介での交流 ・ 関西圏以外の大学への訪問 ・ 万博関連シボの共催提案 ・ 海外の大学と連携を持つ在阪大学へのアプローチ</p>	<p>・ 自然科学のキーパーソンとの関係強化 ・ 関西圏以外の大学(新規顧客)開拓 ・ 万博関連シボの定期開催と拡大 ・ 在阪大学による海外の大学との交流シンポジウム開催</p>	<p>・ 自然科学のキーパーソンの組織化 ・ 全国の大学(新規顧客)ネットワーク確立 ・ 直前の万博関連の意義のある会議の開催等 ・ アジアを中心とした海外の大学との関係の定着化・拡充</p>	<p>医学・自然科学系は元より、多様な学術に関する国際的なネットワークを確立するとともに、産学官さらにはアジアを中心とした海外に広がる多面的なネットワークを構築</p>